

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.90

2013.4.4

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

春を呼ぶ平和のつどいで身も心もあたたかく 平和憲法・9条を守る都南の会

都南9条の会では2月23日、ふれあいランド岩手で「春を呼ぶ平和のつどい」を開催、60人が参加し、にぎやかな元気のでるつどいを楽しみました。

初めに田口宗一都南9条の会世話人代表が「北朝鮮のミサイル、核実験や、中国の尖閣諸島問題など日本の平和を脅かす問題が起きている。このような中で国防軍創設言動など安倍改憲政権の動きが活発化しているが、憲法9条を積極的に守り、他の国との関係を信頼できるものにしていくことが本当の平和を作っていくことだ。」とあいさつしました。

つどいの第1部では、「エリカ 奇跡のいのち」の読み聞かせを行いました。ナチス・ドイツの強制収容所にユダヤ人を送り込む貨物列車から赤ちゃんを投げ捨てた母親、そしてその子どもの話は、いのちを尊ぶことや生きることについて根源的な問いかけを見つけました。第2部では、オカリナのこころ癒される演奏を楽しみ、歌を口ずさみ、ゆったりとした時間を過ごしました。

そして、第3部では継続開催している憲法学習会の参加メンバーの美男美女が、白波五人衆に扮して、寸劇を披露しました。前文や9条、96条になりきって憲法改悪を目論む「にやけた顔の安倍晋三さん」に物申しました。学習の成果を演じたメンバーは、会場から拍手喝采を浴び、憲法学習会への参加をよびかけました。第4部ではみんなで「早春賦」「大きなうた」「花は咲く」などを会場一体となって大きな声で歌いました。

今回の春を呼ぶ平和のつどいは、多くの会員が参加しみんなで作るつどいできた実感しました。会場には会員のみなさん手づくりの作品が飾られ、とても和やかな交流の場となりました。当日は会員が5人増え、今後も会員のみなさんと一緒に、大きく広げる運動を進めたいと考えています。

また、4月21日(土)14時から、キャラホールにて結成8周年記念講演会・総会を開催します。岩手県生協連会長理事の加藤善正さんに「けんぼうと暮らしの危機を考える」をテーマに、今勧められている安倍自民政権の危険な政治を分かりやすくお話いただきます。ぜひみなさま、ご参加ください。
(事務局 根田弘昭)



今月の署名行動

北東北にも春が来ました。桜も間もなく咲く事でしょう。
4月から街宣署名行動を再開します。今月は、9日(火)12:00~
12:30「亀ヶ池(サンビル前)」にて行います。是非ご参加ください。

花巻9条の会

憲法と暮らしを考える市民集会

いまこそ憲法と暮らしを考える



3月9日、「花巻市議会議場に国旗・市旗を掲揚しないことを求める」陳情を出した5団体の主催による「憲法と暮らしを考える市民集会」が開催され、60人の市民が参加し、この問題への関心の高さが示されました。

講師の加藤善正県生協連会長理事は、「総選挙での自民党への投票率は、小選挙区25%、比例区16%で決して多数派ではない」とし、「TPPは日本を弱肉強食のアメリカ型社会に変えてしまうことだ」と安倍政権の体質を厳しく批判しました。さらに、自民党の憲法草案を現憲法と対比しながら、分かりやすく解説し、参院選で自民+補完勢力の多数を許さないこと、憲法96条（三分の二の改正要件）改悪に国民の過半数が反対する状況をつくるのが緊急に必要であると強調しました。

会の後半では、花巻市議会の国旗掲揚問題について詳しい経過が報告され、「市議会において、広範な市民の声をふまえた対応を強く求める」とする緊急アピールを、満場一致で採択しました。

参加者からは、「憲法を簡単に変えられては大変だと身にしみて感じた。戦後一度も戦争をしないでこられたのも平和憲法のおかげ。危険な動きに注意して今の憲法を守っていきたい」「自民党のたくらみをあらゆる機会を通して宣伝したい」などの感想が寄せられました。
(花巻9条の会通信より)

中津川九条を まもる会 城東地区 9条の会 河南9条の会 合同!

緊急！平和憲法の危機を考えるつどい

日時：4月13日（土）13：00～14：40

会場：ホテル山王（山王ハイツ2階）

参加費：無料

講演：加藤善正さん

（平和憲法・9条をまもる岩手の会 呼びかけ人）

憲法会議、いわて労連、自由法曹団、県革新懇、
憲法改悪反対共同センター、県平和委員会主催

憲法記念日のつどい

「憲法9条、自衛隊、国防軍 自民党改憲案のめざすもの」

日時：5月3日（金・祝）10時～12時

会場：プラザおでってホール

資料代：500円

講師：内藤功弁護士（日本平和委員会常任理事）

コラム

自民党の「日本国憲法改正草案」は、どんな「国」にしようとしているか？（その2）

そもそも「日本国憲法」とはどんな憲法でしょうか。それは「人類の英知の結晶、世界の平和のための宝物」（日本国憲法草案起草者の一人である故ベアテ・シロタ・ゴードン）。これは彼女ならずとも日本国憲法に基づく「新しい日本」を築こうと戦後努力してきた国民には、この上なく誇りとなるものです。

しかし、安倍首相はじめ「改憲連合」勢力はこの「日本国憲法」に対して「戦後レジウムからの脱却」、「占領軍から押し付けられた、汚い日本語で綴られた憲法」などと言って、改憲策動を強めています。これは「日本国憲法」前文で戦前の日本をしっかりと反省した日本国民には許すことの出来ないものではないでしょうか。

それでは「改憲連合」勢力はこの日本をどんな国にしようとしているのでしょうか。それは自民「改憲草案」に見るように「天皇は元首」「内閣の助言は天皇に失礼」「国防軍の創設」「権利制限」などとなっており、戦前回帰、「復古」と言われる国にしようとしていることは明白です。しかし、「改憲連合」勢力はこれを「強い日本」を取り戻すなどごまかしています。

このことを県民に広く宣伝すれば、県民は戦前の「戦争をする国」への「復古」を認めないと思います。

(T)